

シンジケーション方式 DBJ-対話型 サステナビリティ・リンク・ローンへの参加について

当行は、株式会社日本政策投資銀行（以下「DBJ」という。）が組成した芙蓉総合リース株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：織田 寛明、以下「芙蓉リース」という。）に対する DBJ-対話型サステナビリティ・リンク・ローン（以下「DBJ-対話型 SLL」という。）に基づくシンジケート・ローンへ参加しましたのでお知らせいたします。

DBJ-対話型 SLL は、「サステナビリティ・リンク・ローン原則」（以下「SLLP」という。）および「グリーンローン及びサステナビリティ・リンク・ローンガイドライン」（以下「環境省ガイドライン」という。）に基づき、サステナビリティ・コーディネーターである DBJ が対話を通じて借入人のサステナビリティ経営の高度化に資する適切なキー・パフォーマンス・インディケーター（以下「KPI」という。）とサステナビリティ・パフォーマンス・ターゲット（以下「SPT」という。）の設定を支援するとともに、貸付期間中の定期的な対話により SPT の達成に向けた伴走支援を行う融資メニューです。

芙蓉リースは、「2030年に目指す姿」からバックキャストした重要課題（マテリアリティ）として、「循環型社会実現への貢献」を掲げるとともに、中期経営計画「Fuyo Shared Value 2026」においても、サーキュラーエコノミー分野を成長ドライバーとして、経営資源を集中的に投下するトランスフォーメーションゾーンに位置付けています。

本件では、当該マテリアリティに対応する非財務 KPI として、「廃プラスチック（返却物件由来）のマテリアル/ケミカルリサイクル率」を選定し、SPT を設定しました。

【KPI および SPT】

KPI	芙蓉リースの子会社である株式会社 FGL サーキュラー・ネットワークの八王子テクニカルセンターにて荷受けされた返却物件由来の廃プラスチックのうち、株式会社 FGL サーキュラー・ネットワークの委託先によってマテリアルリサイクル又はケミカルリサイクルが実施された割合（kg ベース、以下「廃プラリサイクル率」という。）
SPT	2025 年度における廃プラリサイクル率を 80.0%以上とすること

【本ローンの概要】

借入人	芙蓉総合リース株式会社
マンデータード・リード・アレンジャー	株式会社日本政策投資銀行
サステナビリティ・コーディネーター	株式会社日本政策投資銀行
貸付人	株式会社日本政策投資銀行、株式会社肥後銀行 ほか

※本ローンの SLLP および環境省ガイドラインへの準拠性についての詳細は、芙蓉リースのウェブサイトに掲載の自己評価結果をご参照ください。https://www.fgl.co.jp/sustainability/esg/pdf/self_evaluation_result.pdf

以上